一般質問

新産業団地の最優先候補地である実取地区26haの整備推進及び先端デジタル企業の誘致について



滝田　一郎 議員

質問：２０１７年10月資生堂の誘致をもって市内の工業団地２８６haは、ほぼ完売となりました。実取地区の産業団地は、22年ぶりに本市における企業誘致の再出発を試みる開発です。サウンディング調査に向けて市としての早期の事業方針の明確化が求められています。地権者や関係団体との今後の年次計画について伺います。

答弁：土地所有者などの権利調査業務の実施に向け、準備を進めています。今年度中に民間事業者の意見や新たな事業提案などを把握するサウンディング調査を行い、来年度以降は調査結果等を踏まえ進めていきます。

質問：ＡＩ関連企業や先端デジタル企業を誘致する考えがあるか伺います。

答弁：幅広い業種を対象として、本市の産業特性や立地環境に適した企業を選定します。

質問：既存の高度製造業（医療用機器、高額機器等）との産業シナジー（相乗効果）の創出について伺います。

答弁：既存の高度製造業との連携や新たな製品の創出など地域企業とのシナジーが期待できることも重要な選定条件の一つになります。

本市の基幹産業である農業・畜産業における生活環境・臭気対策について



秋山　幸子 議員

質問：大田原市には、生乳生産農家が45軒、和牛などの専門肉用牛畜産農家が１１４軒ありますが、畜産農業者の持続可能性と地域住民との良好な地域社会を築くため、生活環境・臭気対策が求められています。

　家畜排せつ物の速やかで適切な処理による臭気対策は、畜産業の後継者づくりにも生かせるため、具体的な臭気対策に対する市の考えを伺います。

答弁：畜産関連の臭気については、地域住民からの相談や苦情により、現地を確認した時点で把握します。本市では、市単独補助事業として畜産環境保全対策事業により、微生物資材を利用した良質な堆肥の生産・活用、臭気の低減対策に対する支援を行うとともに、市ホームページにおいて、家畜排せつ物の管理や堆肥散布に関する注意喚起を行っています。

　臭気苦情の多い畜産農場に対しては、県と連携しながら、臭気の発生ポイントと臭気の強さを見える化する臭気マップの活用を促し、臭気の低減対策を支援しています。

　今後も関係機関と連携し、畜産経営と地域の生活環境の調和を図りながら、対策を進めます。